

2014年度 凍土分科会報告

雪氷研究大会（2014・八戸）において気象水文・凍土合同分科会セッションおよび凍土分科会総会をおこなった。合同セッションの参加者は32名、総会の出席者は17名であった。

日 時：平成26年9月20日（土）17:30-19:30

場 所：八戸工業大学 210 室

講演会「凍土と気象水文のクロスカッティング」（17:30-19:00）

植生、凍土、水文、気象の要素研究とそれらのフィードバックを扱った統合的研究をバランスよく行うためには分野横断的議論が重要である。鈴木気象水文分科会幹事長からの講演会主旨説明に続き、以下3つの講演があった。小谷亜由美（名古屋大）から、凍土－森林－大気系が相互に影響する複雑な現象である土壌湿潤化へのカラマツ林の応答について、東シベリアでの詳細な測定例やその解釈が紹介された。澤田結基（福山市立大）・武田一夫（帯広畜産大）からは、とちぎ鹿追町のジオパークについて、設立のきっかけから現在まで、その活動内容や関連話題を「しばれ」を中心に紹介された。石川守凍土分科会会長（北海道大）からは、モンゴルにおける凍土調査やモニタリング体制の現状や問題点について報告があり、澤田氏の話も踏まえ、地域のネットワークの重要性が説かれた。

分科会総会（19:00-19:30）

昨年度の活動報告として、雪氷において人工凍土壁の解説の発行とHPでの公開、RCOP誘致活動（当選ならず）、第16回および第17回「永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会」の後援、分科会メーリングリスト・HPの維持が紹介され、H25年度の監査報告が示された。また、日本の地温データセットの収集について、現在までに収集済みのデータセットとそれらの整備状況、データベースの一部は付記事項等を整備すれば既に公開可能な状態にあることなど現状説明と、今後の予定が報告された。本年度の活動計画については、各集会、セミナーの後援や共催（凍土の分布モデリングに関するレクチャーと実習@北大2月など）、日本の地温データセットの収集の継続が上げられ、永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会の開催予定（MLでの継続審議）や凍土研究に関する情報共有の促進について議論された。また、関連会議（土壌水分ワークショップなど）の紹介がなされた。ついで、人工凍土壁について今後の凍土知識の普及活動について議論を行った。公開中のHPの検索順位を上げるなど、普及・啓蒙活動を、進めることで大筋の合意は得られたが、その方法については更なる検討が必要となった（MLでの継続審議）、また、今後の質問やマスコミへの対応やFAQの整備について議事が紹介されたが、時間の都合MLでの継続審議となった。